

平成23年7月10日

今週のベストショット



H23. 7. 10 青松園B 三友クラブ 対 三苦三球会戦

なかなか見られない外野手の写真。1点を争う好ゲームだからこそ、ひとつでも前の塁を盗む姿勢、ひとつも塁をやらない姿勢は大事ですね。(写真：新町ウインズ 早田主大)

奈多グラウンド

塩浜ジャガーズ	4 0 0 0 0	4	負投手：山中	HR：なし
三苦ホーネッツ	3 2 4 6 ×	15	勝投手：井手	HR：井手

初回から試合は大きく動いた。ジャガーズは初回クリーンナップの3連続タイムリーなどで幸先よく4点を先制する。しかしその裏ホーネッツも相手のエラーなどに乗じて3点を返す。二回には2番稲葉の二打席連続三塁打などで2点を返し逆転すると、三回には7番ピッチャーの井手がレフトオーバーの3ランで3点を追加し勝負あり。最終回も打者11人の猛攻で6点を挙げたホーネッツが17安打15得点で大勝した。

(記事：レッドサンデーズ 鳥羽晃弘)



初回、先制打を放つジャガーズ立石高伸選手。
このまま一気にいくかと思われたが・・・



投げては勝利投手、打っては3ランHRの
ホーネッツ井手崇選手。

雁ノ巣レクE

雁ノ巣ライナーズ 20101 4 負投手：奥原 HR：なし
奈多フェニックス 3033X 9 勝投手：池見 HR：なし

ライナーズは一回表、4番宇野の左中間二塁打と返球の乱れで2点を先取。その裏フェニックスは3番安河内祐貴の犠牲フライで同点。その後ワイルドピッチと送球エラーで逆転に成功。同点に追いつかれた三回裏には、3番安河内、4番実延、6番池見の3本の三塁打で3点をあげ、四回にも3点を追加し試合を決めた。ライナーズは、初登板の奥原投手が、初回と四回に無死から連続四球で出塁させ、共に失点に繋がったのが悔やまれる。

(記事：ブルーマーリンス 友重正司)



一回表、ライナーズの4番宇野元康選手は、左中間へ先制の二塁打を放つ。



一回裏、フェニックス3塁ランナーの今林勇太選手は実延選手の2盗の間にホームへ！

青松園A

奈多サンデーズ 05011 7 勝投手：江口 HR：木下
新町パイレーツ 20101 4 負投手：八坂 HR：なし

一回表、サンデーズは幸先よく得点圏にランナーを置き軸に回るも一本が出ず無得点に終わる。一回裏、パイレーツは先頭打者牟田の三塁打にてチャンスを作るが2・3番が凡退しチャンスが潰れたかに思われたが、二死から4番桐島のタイムリーで先制。続いてパスボールにて二塁に進むと、5番大濱も連続タイムリーを放ち追加点を挙げる。先制点をもらい波に乗っていききたいパイレーツ八坂投手ではあったが、二回表先頭打者を四球で出すと、サンデーズの打線に捕まり9番前田、1番荒口に連続タイムリーを打たれ同点とされる。更に絶好調の2番木下にホームランを打たれ、この回5失点とあっさりと逆転を許してしまった。三回裏、パイレーツ牟田の二打席連続の三塁打にて反撃を開始するも、1点止まり。四回表サンデーズは、3番田中の二塁打にて追加点を挙げ、五回表にも9番前田の二打席連続のタイムリーが飛び出し逃げ切りを図る。5回裏、二死と追い込まれたパイレーツだが、四球など



二打席連続で左三塁打を放ったパイレーツ1番牟田繁選手。

が絡み満塁とし、一発出れば同点のチャンスに5番大濱。いい当たりもショートゴロにて万事休すと思いきや、ショートのエラーにて1点を返し、なお満塁で6番山野井。しかし痛烈な当たりも代わったピッチャー須藤のグラブに納まり、ゲームセット。パイレーツはサンデーズにあと一歩及ばなかった。

(記事 奈多クラブ 吉田 貴史)



2試合連続でHRを放つサンデーズ木下隆弘選手。



ホームインして喜ぶサンデーズ選手。

青松園B

三友クラブ 11000 2 負投手：足立 HR：なし
 三苦三球会 10200 3 勝投手：吉留 HR：なし

初回三友は四番松尾のセンター前タイムリーヒットで先制。その裏三球会はパスボールで追いつく。が、2回の三友の攻撃時エラーとワイルドピッチでまたリードを許す。しかし3回の三球会の攻撃で四番小倉のセンターオーバー2点タイムリーヒットで逆転に成功。三友は5回にツーアウトから連打、死球で満塁のチャンスを作り代打入口。フルカウントの10球目！吉留投手渾身のストレートがズバリと決まり三球会が勝利した。(記事：新町ウインズ 桐島司)



先制打を放った三友クラブ4番の松尾徳摩選手。



三回裏逆転の三塁打を放った三球会4番の小倉圭太選手。



最終回、二死満塁に三友クラブの代打入口茂範選手を見逃し三振に打ち取った三球会吉留隆久投手の力投。

第10週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

今週は気持ちよい気候の中4試合が行われましたが、その4試合全てが逆転で決着がついています。

当然先取点を取った方が試合を有利に進められるのですが、点を取られても諦めない強さが逆転勝利を呼び込むのでしょう。

奈多グラウンドでは、ホーネッツが4点のビハインドを跳ね返し、終わってみれば失点は初回の4点だけでした。

雁レクEでは、2点のビハインドを3点ずつ返す効率のいい得点で返したフェニックスが勝ちました。青松園Aでは初回のチャンスを逃し、逆に2死から2点を取られるという悪い流れながら、一気の集中打でたたみかけたサンデーズが逆転勝利。青松園Bでは1点を争う息詰まるシーソーゲームを三球会の四番小倉選手の一振りが勝利に導きました。

逆転勝ちと言うと、打者が注目されがちですが、味方を信じて最小失点に押さえ込もうとするバッテリーの努力を見逃すことが出来ません。現に、この4試合全て、先制された回を除けば、ひとつの回に2失点以上していません。しっかり抑えるからこそ、打者は安心して打てると言っても過言ではないと思います。来週から、「守備からリズムを作る」ことを心掛けて、試合に臨んでみてはいかがでしょうか？